

## 委任統治制度と其國際的批判價值

阿 部 三 四

### 一

嘗てロイドジョウジ氏が大英國の宰相として、ときめいた時のことである。一九一八年の一月。從來英國政府の執り來つたる政策と、近代の帝國主義とに對して痛烈なる反撃を加へ、民族自決主義は舊獨逸領たる植民地にも適用せらるべく、單に歐洲諸國民に而已限局すべきではないと放言したことがある。阿弗利加又は南洋部族に此の原則の適用は比較的に嶄新なる試みであり、且つそれ自體に於て既に革命的思想を帶有してゐるのである。にも拘はらず、氏は更に一步を進めて、此等の地方なり、部族なりが、歐洲の資本家若くは政府の便益の爲に、利用搾取せらるゝを防止すべきであると附言してゐるのである。

氏の宣言は、之を文字通りに解釋すれば、舊獨逸領植民地に對する帝國主義の終熄を雄辯に物語るものである。而して斯の如き宣言が獨逸領植民地に對して行はるゝとせば、獨逸領植民地以外の他の植民地に對しても、行はる可きであつて、矛盾なく其の適用を拒否することは

可能の如うである。斯くの如く考察して見ると民族自決と帝國主義とは永遠に和解し難き仇敵ではあるまいか。

ロイド・ジョウジ氏は何故に斯の如き驚愕に値する異常の言辭を弄したのか、其の理由は暫く措て問はず、先づ第一に氏の宣言と同盟諸國の政策とを比較對照し、兩者が如何なる程度に於て相背馳するかを考覈したいと思ふのである。戰勝を豫想し、同盟國政府が祕密條約に因り、植民地分割の協定をなしたことは事實である。英佛兩國は一九一六年に阿弗利加に於ける舊獨逸領植民地の併合に關して覺書を交換してゐる。英佛兩國は又一九一五年四月二六日の倫敦祕密條約に因り、伊太利に對し報償を與ふことを約定してゐる。其の報償なるものは阿弗利加大陸に於ける伊太利植民地の増大を意味してゐたのである。而かも南阿聯邦は舊獨逸領南西阿弗利加の併合を期待し、白耳義は舊獨逸領東部亞弗利加の分割に與からんことを冀望してゐたのである。極東に於ける舊獨逸領植民地に關しては、一九一七年二月、英國は山東及赤道以北に於ける舊獨逸領諸島に對する日本政府の要求を支持し、同時に赤道以南に於ける英國政府の要望に對し、日本政府は同一精神を以て之を取扱ふ旨の了解が成立してゐたのである。而して佛、露、伊の三國は此の取引に對し、遺憾なき同意を表明したのである。斯の如くにして舊獨逸領植民地は民族自決といふが如き高遠なる理想に觸るゝことなく、其の搾取の利用に關

し何等顧慮せらるゝどころなく處分せられんとしたのである。

このことは單に舊獨逸領植民地に限つたことではなかつた。土耳其も波斯も同様に戦争が齎したる、正當なる掠奪物と思惟せられたのである。一九一五年三月英佛兩國は露國に對し、コンスタンチノーブルを含む土耳其の一部分割と、北部波斯に於ける自由行動を承認し、英國は波斯に於ける中立地帶を其の勢力範圍中に加へ、而して土耳其に於ける英佛兩國の要求は之を爾後の交渉に譲るべきことを協約したのである。一九一五年四月二六日、同盟國は祕密條約に因り、伊國に對しドデカネシア及土耳其分割に關する正當なる分前を確認し、一九一六年の露佛協定及英佛協定は露國に對しシリヤ、シリシヤ及東方波斯の國境に至る勢力範圍を、英國に對し、メソポタミア、及バレスチンに於ける港灣並にサイブラスを除く廣大なる勢力範圍を割當てたのである。而して伊太利に對する正當なる分與は、一九一七年に至り、明白に區劃せられ、雷にアダリヤのみならず、アナトリアの南部海岸の全部及シミルナ州に迄及んだのである。

以上叙述したるが如き併合的帝國主義の祕密政策に對し、前記ロイド・ジョウジ氏の演説の示す如き相反馳する政策の發生、殊に重要な委任統治制度の萌芽を見るに至つたのである。大戰中に於ける反帝國主義の特色は民族自決と國際主義の思想とであつたのである。此等の兩

思想の發達に於ける淵源に溯り、研究するは固より本論の目的ではない。併し乍ら、反帝國主義者にとつて、委任統治の起源を知ることがは強ち興味索然たるものではあるまいと思ふのである。米國のリッブマン氏は平和論者は外交的努力、武裝平和、戰爭自體迄が弱小國領土の擄取的利用を中心として、回轉せる事實を失念してゐる。國際主義のなすべきことは、事業家が後進地方に於て事業を經營するに當り、本國政府の援助に俟ざる可からずとなす帝國主義的理論の打破に存するのである。而して本國の援助に依頼することが帝國主義の中樞神經を構成する所以であり、而して之を截斷することが吾人の任務であると氏は結論してゐるのである。氏は更に其の方法として、歐洲會議例へばモロッコに於けるアルゼシラス會議の如きは條約の可決と共に直に解散することなく、時に必要に應じて開會し、而して該條約の實施を監督する機關として其の存在を繼續すべく、而して結局は世界的危機の發生の虞ある各地域に一種の上院として活躍する繼續的會議を設置し、一方に於て原住民の集會をして、下院を構成せしむ可きである。斯の如くにして植民地の統治は漸次に國際化せらるゝに至り、後進國に移住する人々も本國政府よりは却つて新制度の保護に信賴するに至るであらう。果して然りとせば、最早や其處に武力干涉の必要も生ぜざる可く、競爭的狀態に在る帝國主義は其の口實と其の刺戟とを失ふ筈であると唱道してゐる。

ウオルター・リップマン氏と同様の提案をなせる者に、英國のゼ・エー・ホブソン氏がある。

氏は有名なる經濟學者であり、又反帝國主義論者である。氏はモロッコに於ける國際施政規則に關するアルゼシラスの決議が解決の方法を指示したる點に於て、リップマン氏と同様の見解を抱持してゐるのである。氏は國際會議の監理の下に於て、一國は門戸開放を條件とし、後進國に對し干涉を行ひ、政治的支配をも敢行し得と説いてゐる。此の種の提議は其の確固たる史的根據を一九〇六年に於けるモロッコ商議に置いてゐるのであつて、其の當時モロッコに關し米國國務卿ルート氏は佛西兩國を受任國と認め、兩國に對し照會するところがあつたのである。而して大統領ルーズベルト氏は明 委任なる字句を使用せりと稱せられてゐる。併し乍ら類似の思想は一八八五年の伯林決議書に存するかも知れない。蓋し同決議はコンゴ流域を一定の國際的制限の下に置くと同時に、特に門戸開放に關し規定を設けてゐるからである。大戰中ランドテール誌の主筆であつたフキリツプ・ケアー氏は植民地と其の本國との關係を表示する適當なる用語として、屢々、受任及後見なる字句を採用したのである。ケアー氏其他英國の海外領土問題に興味を有する、ラウンド・テール・グループとして知られたる人々が委任統治制度への嚮導者として、多少の寄與と貢獻とを爲したることは明白である。

植民地の國際管理に關する思想は、一九一七年八月、英國勞働黨の覺書に依り、可なり人氣

に投合し、相當の反應を惹起したのである。率直且つ完全に帝國主義を排擠し、全中央アフリカ—英、白、佛の植民地及リベリア並に舊獨逸屬領を含む—を纏て設定せらる可き國際聯盟の下に於て、公正無私なる委員會の施政に委すべきことを主張したのである。其處に國際商業に對する門戸開放があり、而して原住民は特に剝奪と搾取から救済せられねばならぬのである。然るに獨立勞働黨は此の國際管理案を以て實行不可能なるものとなし、八月の末、直接國際管理に代ふるに、國際委員會の監理の下に於て、各歐洲諸國に對して、植民地の統治を委任するの計劃を立て、此の趣旨に基く宣言を公表したのである。

其の形式に於て多少の徑庭はあるが、如上の思想は一九一八年二月二五日、英京倫敦に於て開催せられたる聯合勞働會議の宣言中にも表明せられてゐるのである。それは熱帶アフリカに於ける全交戰國の植民地は、國際聯盟の下に於ける國際協定に因り定められ且つ其の保障に依り維持せらるゝ管理制度の下に置かるゝこと、國家主義を尊重すると共に、均しく經濟的自由思想の鼓吹並に原住民の權利を擁護する爲に充分の考慮を拂ふこと等であつたが、特に此の管理制度は原住民の希望を顧慮し、土地所有權に關し原住民權利の擁護並に植民地自體の福祉を増進する爲に、一切の植民地收入の提供を要望したものであつたのである。

一九一八年、ロイド・ジョウジ氏が試みたる演説は、前述の事實を背景として考察すべきで

あつて、而かも氏の演説は英國勞働黨が其の主義綱領發布後に於て行はれたものである。賢明なる威爾斯の政治家は、同盟諸國が帝國主義的祕密條約の實行に腐心しつゝありその思想を一掃せんと努力したのであるが、滑稽にも其の祕密條約なるものは同年の冬に公表せられ、氏は其の條約の廢棄さへ試みんとはしなかつたのである。

一九一八年一月八日、米國大統領ウキルソン氏の提案に係る所謂十四原則の内の第五原則は明晰を缺く厭はあるが、其の眞摯なる點に於ては遙に優るものが在つたのである。其の第五原則に付き検討するとき、何人と雖直に氏の政策の有する概念的特質を發見するに苦しまないであらう。其の一は氏の熱烈なる希望であつた平和解決を掠奪物の貪慾なる分配に終らしめざることであり、其の二は一九一八年以前に於て、屢々、氏に依り提唱せられたる、帝國主義的貪慾及搾取に對する氏の憎惡である。併し乍ら、漠然たる第五原則は委任統治制度の特殊的方案を隔つること如何に遼遠なるかを示してゐるのであつて、一九一八年夏、同氏の作成になる規約第一案は委任統治制度に關する何等の規定を包含してゐなかつたのである。

## 二

敢て謂ふ。委任統治制度は實際に於て帝國主義者の祕密條約と反帝國主義者の抱懷する自由思想との打開策若くは妥協であると。其の妥協の形式は一九一八年一二月、南阿聯邦のゼー・

スマツ將軍がウキルソン大統領の胸裡に植付けたものだと言はれ、従つてスマツ將軍が委任統治制度の創案者と思惟せらるゝに至つたのである。併し乍ら、其の基礎的思想に至つては、必ずしもスマツ將軍のみが考案したものではない如である。ジ・エル・ビアー氏の如きは一九一八年一月、メソポタミアの如き後進地方は國際委任統治制度により一國に委任せらるべく、而して原住民者を擄取より保護する必要上、最も嚴密なる保障の委任行爲中に包含せらる可きことを力説し、之と共に他國の權益の侵害に對し、擁護の責務に任すべきを高調したと謂はれてゐる。強て類似の形式を求むれば約二十五年前日本に於ては有賀長雄博士の滿洲委任統治論があり、實際問題としては英國のサイプレス島に於ける委任統治、埃及國のボスニア、ヘルツェゴビナ二州に對する委任統治がある。又十數年來植民國は少くとも理論上、多くの關係に於て、後見人の義務に類似する義務を治下の後進國人民に對し、負擔せることを認識してゐたのである。畢竟此の點に關する深き詮索は無益の徒事である。吾人はスマツ將軍が國際聯盟に於ける委任統治制度を創案し、之を明確に主張したものがスマツ將軍なるを知れば足るのである。

スマツ將軍の起案は從來露國、埃及國及土耳其に所屬せる領土を國際聯盟の權力の下に置き、然る後國際聯盟の任命し得る受任國に、一定地域に對する權力を委任せんとするに存したのである。將軍は名稱並に組織を考案したのであるが阿弗利加及太平洋に於ける舊獨逸領植民



地に對しては、委任統治制度を適用するの意圖を有せなかつたことは明白なる事實である。又何人と雖將軍に之を期待せざりし如である。蓋し將軍はブアーの帝國主義者として樞要なる地位を占め、且つ舊獨逸領南西阿弗利加及東部亞弗利加をブアー及英國に併合せしめんことを企畫してゐたからである。

大統領ウキルソン氏は將軍の考案を容認し、氏の第二規約草案中に委任統治制度に關する條項を加へたのである。今其の大體を摘記すれば、従前奧匈國及土耳其に隸屬せし人民及領土並に従前獨逸帝國主權の下に在りし植民地に對し、國際聯盟は下記の基本原則に従ひ、最終處分又は繼續的施政の主權に付き遺産保管者と認められ、而して此の移轉及監理は一切の國家の併合或は特權を排除するものである。此等の人民及領土に關し、其の自決及自定の自治以外に必要なる一切の權限、監理或は施政は國際聯盟の獨占的機能であつて、聯盟自ら之を行使するか或は委任して行ふことゝす。國際聯盟は此等の人民及領土の權限、監理又は施政を、其の代表者又は受任國として指定任命する一國、或は代理機關に委任することは合法的である。但し出得來る限り任命せらる可き代表者又は受任國は、自治人民又は領土に依り指名又は承認せらるゝことを必要とする。受任國又は代理者の行使する權限、監理又は施政の程度は一切の場合に於て聯盟に依り特別條令又は契約證を以て明定する。此の條令又は契約證は、聯盟の監視及監

理の完全なる權力を保留し、且つ斯かる統治を受ける人民に對しては受任國又は代理者に對する受任契約違反の救正、或は受任國又は代理者の變更に付き、聯盟に向つて訴願するの權利を留保せしむることとし、又受任國又は代理者は一切の場合に於て、此等人民又は領土の經濟的資源の使用及發達に關し、門戸開放又は機會均等の政策を採る可きものとす。受任國及代理者は如何なる場合に於ても、聯盟の規定せる決定的標準を越えたる陸海軍兵力を組織維持することを得ず、諸帝國の後繼者として、國際聯盟は直接に且つ委任に依ることなく、諸帝國内より勃興し又は創設せられたる新獨立國に對し、彼等相互間の關係を監視するの權力を有し且つ此等の國家間の紛議を、現存秩序及一般平和の維持の目的を以て、調停整備するの義務に任じ且つ之を履行すること。筋肉勞働に従事する一切の者に對しては、公平なる時間及人道的なる勞働條件を設定維持することを約し、並に其の通商及産業關係の及ぶ一切の國に於て、同様な政策及保障の採用維持せらるゝに努力すること。國際聯盟は一切の新興國に對し、獨立國又は自治國として承認を與ふる前提條件として、其の裁判管轄權の下に在る一切の人種的又は國民的小數民族に對し、法律上及事實上差別待遇を與へざるの義務を要求する。之が一九一九年一月、印刷配付せられたものである。第二章案はスマツ將軍の考案の大部分を特に字句の末節に至る迄採用したのであるが、ウキルソン氏は之に對し重大なる變更を加へ、露國を除外して獨

逸領植民地を包含せしめたのである。氏は委任統治制度に對する聯盟の權力を鞏固にし、薄弱なる妥當を排して、一の眞正なる制度を確立せしめたのである。此の委任統治制度の思想にして各國民の意思に投合せんか、現在の委任統治制度の有する不確實は廳て除去せらるゝに至るであらう。

委任統治制度に關するウキルソンの提案と、同盟諸國間に締結せられたる祕密條約との間には、最初は可なり激烈なる抗諍があつたのであるが、其の後巴里の平和會議に於て妥協が成立したのである舊獨逸領植民地に關する一年前の宣言を無視し、變通自在なるロイド・ジョウジ氏は一月二三日、最高會議に於て先づ反對の一聲を擧げ、緊切なる歐洲國境問題を討議する以前に於て、直に阿弗利加、近東及太平洋に於ける掠奪植民地の分割すべきことを提議したのである。之に對し佛の宰相クレマンソウ氏伊の外相ソレターは賛成の意を表したのであるが、固よりウキルソン氏の承諾すべきことではなかつたのである。翌二四日ロイド・ジョウジ氏は新西蘭、濠洲、南阿聯邦及加奈陀の各首相に慫慂するに、英國治自領が大戦中に占領したる獨逸植民地の即時併合を要求せんことを以てしたのである。日、佛、伊の三國も亦均しく祕密條約に基き夫れ々々要求するところが在つたのである。併し乍ら、ウキルソン氏の決意には確乎として動かす可からざるものがあつたのである。氏は、世界の人々は、列強は先づ掠奪物を分配

し而して後國際聯盟を組織したと非難するに相違ないと思考したのである。氏は又誠實に、斯の如き行動は聯盟の成立を不可能ならしめ、列強をして武力競争の往時に立還らしむるものであると思惟したのである。氏の辯論の力よりは寧ろ氏の鞏固なる決心は終に列強をして委任統治の原則を承認せしめ、獨逸植民地並に土耳古領を委任統治制度の下に置かしむるに至つたのである。

大統領ウキルソン氏の畢生の大勇猛心は遂に委任統治の原則を確立せしめたのであるが、同盟國は其の細目に至つては部分的に之を履行しなかつたのである。聯盟規約第二二條の如き長文の規定は或る英國記者の云ふところに依れば、主としてスマツ將軍及フキリツブ・ケアー（ラウンド・テーブル誌の主筆を辭し、ロイド・ジョウジ氏の祕書となりし人）兩氏の作成に係るものであるが、其の熟練にして、巧妙なる取捨選擇はウキルソン氏の草案をして殆んど完膚なき迄認め得可からざるものとし、其の意義と法的内容とは痕跡を止めざる迄切捨てられ、其の殘部は光彩陸離たる秀麗なる修辭を以て外飾せられたのである。ウキルソン氏は率直且つ明瞭に奧洪國に屬する領土及獨逸植民地と記載したるに拘はらず、規約第二二條は極めて婉曲なる修辭を弄し、今次の戦争の結果従前支配したる國の統治を離れたる植民地及領土にして……云々と記してゐるのである。

ウルソン氏が聯盟に、最終處分の主權―受任國として國家又は組織體を任命するの權、監督權、委任統治地域よりの訴願を直接受理するの權其の他を含むの權―を附與したるに對し、規約第二二條第二項は最終の權利又は主權の存在を明白にせず、何人に依り、又は如何なる方法に於て受任國が選定せらる可きであるか、又聯盟の監理權行使の範圍を不確實ならしめてゐるのである。其の第二項は、此の主義を實現する最善の方法は該人民に對する後見の任務を、先進國として資源、經驗、又は地理的位置に依り、最も此の責任を引受くるに適し且つ受諾するものに委任し、之をして聯盟に代り、受任國として右後見の任務を行はしむるに在りといふのである。

資源並に經驗の點より論究するときは、同盟國が受任國として充分の資格を有することは言ふを俟ない、併し乍ら、地理的位置なる字句を挿入したる所以は、無經驗なる英國自治領に其の兼てより翹望せる舊獨逸領植民地を與へんが爲に、採りたる措置に外ならないのである。聯盟の任務は依然として不明瞭であり、其の結果同盟國自身が自國を受任國に任命し、併合の場合と略ぼ同様の權力を享有したたのである。

此の關係に於て、獨逸がベルサイユ條約第一一九條に因り其の海外領土に對する一切の權利及權限を主たる同盟及聯合國の爲に拋棄したることが説明し得らるゝのである。又同様に土耳其

古條約第九五條は主たる同盟國に對し、シリア、メソポタミア及バレスチンの國境の劃定、受任國の選定及委任統治の條件を公定することを承認してゐるのである。簡説すれば同盟諸國はウキルソン氏が聯盟に附與せんとしたる受任國の任命を聯盟の掌中より奪去つたが爲に、聯盟は唯斯くして選定せられたる受任國及同盟諸國により作成せられたる條件を承認するの權限を有するに過ぎなかつたのである。受任國は當然國民に依り任命せらるゝか、少くとも承認せらる可きものであるとのウキルソン氏の條項は、規約第二二條の規定するところに因れば、メソポタミア、シリア及バレスチンに適用せられたるに止まるのである。而して此等諸國民の希望は受任國を選定するに當つて、第一に考慮す可き重要事項なるに拘はらず、事實問題として國民の希望は顧慮せらるゝことなく、少くともシリアの場合に於ては不問に附せられたのである。

ウキルソン氏は聯盟が出来る丈の短時日間に、聯盟の後見の下に國務を處理し得る一政治單位の建設に努力すること及獨立の請願を聽許し、而して何時にても後見より免除せらるゝことに付き、規定せるに拘はらず、規約第二二條の末項は請願に關し何等規定するところなく、又委任統治地域に於ける住民が自立し得る適當なる時機に達したる場合、何人が其の獨立を決定すべき權利を有するのであるか、聯盟であるか、當該受任國であるか、此の點に關しても明記を缺いてゐるのである。

ウキルソン案に於ける最も顯著なる變更は委任統治制度の三分類である。其の變更の目的は英國の利益に存するのであつて、ウキルソン案である委任統治地域に於ける門戸開放が可決せられたる場合には、英領南阿、濠洲及新西蘭が甚だしき窮境に陥るからである。濠洲及新西蘭は赤道以北に於ける舊獨逸領諸島の委任統治を希望すると共に、日本移民に對し門戸を閉鎖せんとする決意を抱いてゐたのである。英領南阿は舊獨逸領南西阿弗利加に對する委任統治を切望し、而して荒蕪地を通じ廣大なる國境に沿ふて關稅の障壁を設くるよりは、寧ろ南西阿弗利加と關稅同盟を結ばんとする意圖を有してゐたのである。然るに英領南阿は英國商品に對し、特惠的待遇を與ふる保護關稅を有したるが故に、斯の如き特惠關稅の委任統治地域に對する適用は門戸開放違反になるからである。従つて規約第二二條は南西阿弗利加及南太平洋諸島を以て一團となし一分類を構成せしめたのである。現今C式委任統治として知らるゝものであつて受任國領土の構成部分として其の國法の下に施政を行ふを以て最善と思惟せられたものである。換言すれば南西阿弗利加及南太平洋諸島は施設上に於ては併合せられたのであつて、獨逸の統治地時代に於ける門戸開放は閉鎖せらるゝに至つたのである。而して英佛兩國の希望を満足する爲に規約第二二條は他の人民殊に中央阿弗利加の人民は受任國に於て其の地域の施政の責に任すべき程度にあり、尤も受任國は公の秩序及善良の風俗に反せざる限り、良心及信教の自

由を許與し、奴隸の賣買又は武器若くは火酒類の取引の如き弊習を禁止し竝に築城又は陸海軍根據地の建設及警察又は地域防備以外の爲にする土人の軍事教育を禁遏すべきことを保障し且他の聯盟國の通商貿易に對し均等の機會を確保することを要すと規定してゐるのである。所謂B式委任統治が之れである。

唯A式委任統治のみがウキルソンの一切の委任統治が斯くあるべきことを希望してゐたものである。即ち自立し得る時期に至る迄施政上受任國の助言及援助を受けるものであつて、受任國の選定に付ては主として當該部族の希望を考慮することを要するものである。併し乍ら、規約第二二條はA式委任統治に對し門戸開放の違反又は原住民者に對する搾取に付て、特殊の保障を設けてゐないのである。

斯の如く巧妙ではあるが、公正を缺く厭ある方法に依り、スマツ將軍及フヒリツプ・ケアー氏は大統領ウキルソンの眞誠なる國際監理の下に於ける受任制度に對し、一の妥協方法を按出したのである。併し乍ら、其の妥協なるものは衷心的希望に近く又英國自治領の首相竝に歐洲外交家の帝國主義的抱負に迎合したものに過ぎないのである。委任統治の本質は一九一九年五月七日所謂三巨頭がB式委任地域及C式委任地域の假分配をなしたときに、更らに蹂躪せられた感があるのである。英國は獨逸領東部阿弗利加を―其の一部に對する白耳義の要求は無視せ



られたのである——英領南阿は獨逸領南西阿弗利加を、新西蘭は獨逸領サモアン島を、英帝國はナウル燐酸鹽島を、赤道以南に於ける舊獨逸領諸島は濠洲に、同以北諸島は日本に、而して英佛兩國はトーゴランド又カメルーンに關しては聯盟に對し共同推薦をなしたのである。而も其の領土の分割に關しては一九一六年の祕密協定に依り既に決定してゐたといふことである。又伊太利は一九一五年四月二六日に於ける倫敦條約第一三條に因り、英佛兩國が阿弗利加に於ける獨逸植民地を專有した場合には同國も報償を受くるとの約定を爲したのであるが、該一三條の適用に關する委員任命に付て英、佛、伊の三國は更に協定を成立せしめたのである。之を要するに英佛兩國は原則上委任統治制度を採用し、而して可能の範圍に於て其の祕密條約の實行を企圖したことは明白である。ウキルソンの委任制度に對する歐洲帝國主義の巴里會議に於ける論評は結局妥協に依つて其の結局を告げ、之に依つて同盟諸國は委任統治制度なる名目と形式との下に於て併合の實質を贏ち得たと思惟したのである。

### 三

同盟國は自ら受任國たらんと期待した領土を占領し、又は占領を繼續し而して施政を行つたのであるが、其の間規約第二二條の實施に關して、幾多の躊躇と、不確實と、遲滯とが生じたのである、一九一九年の夏、同盟國に依り任命せられたる委員が倫敦に會合し、B式及C式委任

統治の條項を起草したのであるが、佛國が原住民軍隊の募集に關して此等の條項に留保を求め、日本も亦同様に留保を要求したとのことである。然るに聯盟理事會は問題を一九二〇年八月迄延期し、其の時白耳義のエム・ハイマンズ氏は次の如き手續に關する報告を理事會に提出し、其の承認を経たのである。氏は主たる同盟及聯合國が受任國を任命する權利を有する點に付ては、何等の疑惑を抱かなかつたのである。併し乍ら法律上の權原問題——恐らく單なる形式に止まるであらうが、解決を要する問題である——に關し、權原が二重なるを要すと思惟したのである。即ち一は主たる同盟及聯合國に依り、他は國際聯盟に依り附與せらるべきであると思惟したのである。従つて手續上主たる同盟國が受任國を任命して、之を理事會に通告し理事會が之を承認し、而して後、委任統治の條項を決定すべきものと爲したのである。併し乍ら、何人が委任統治の條項を起案すべきであるか、規約第二二條は聯盟國間に豫め合意なき場合、之を理事會に一任してゐるのである。理事會は主たる同盟國が委任統治の起草若くは提案を爲すべきことを決定し、此の手續は履行せられ、一九二〇年十一月十七日、理事會はC式委任統治を承認したのである。其の後一九二一年二月、理事會に於てB式委任統治條項案が正に決定せられんとした時、米國政府より委任統治に關する案は理事會の決定に先だち、其の骨子を通知せられたき旨の通知に接したのである。其の理由とする所は同盟國が委任統治の政治的地位を決定

するの權は、戰爭の直接の結果として取得したものである。交戰國の一員として戰勝に貢獻せる米國は戰爭の結果に關する討議、或は講和條約に規定する委任統治の下に取得する權利に參加することを得と信ずといふにあるのである。理事會は米國の抗議を受ける以前、既にA式委任統治條項に付ては延期を決定してゐたのであるが、B式委任統治條項も亦米國の通牒に基き延期に決定し、同時に米國政府に對し、斯の如き問題を討議する場合には理事會の會合に出席ありたき旨の通告を發したのである。米國は此の勸告を斥け、委任統治條項を受任各國との間に締結するの方針に出たのである。茲に於てか一九二二年七月十七日にB式委任統治條項が、パレスチン及シリアに對するA式委任統治條項が一九二三年九月二十九日に承認せられたのである。併し乍ら、パレスチンに關する羅馬法王の抗議、シリアの委任統治に關する佛伊の抗爭及國境問題等は相當紛糾を惹起したのである。メソポタミアの委任統治に關しては何等發表を見なかつたのであるが、其の代りに英國が該地方にイラクの阿拉比亞王國を建設し、一九二二年一月一日、該王國と同盟條約を締結し、而して一九二四年九月二七日、此の方法に依る委任統治の義務履行に付て、理事會の承認を得たのである。

#### 四

上述の如き遲滯を生ぜしめた所以に付ては、米國も亦責任を負擔しなければならぬ筈である。

米國は委任統治を引受け、其の制度に關與するの希望を有し、事實、巴里に於ける平和委員として活躍したジョウジ・エル・ビアー氏は聯盟事務局の委任統治部の部長として就任する豫定であつたのである。然るに米國上院が委任統治制度の採用に反對し、聯盟規約の批准を差控へ、米國をして聯盟加入を不可能ならしめたるが爲に、遂に沙汰止みとなつた譯である。

併し乍ら、米國は特殊の物質的利益、換言すれば石油と海底電線の爲に、委任統治問題に捲込まるゝに至つたのである。石油は實にメソポタミア及バレスチン兩地方に於ける最も重要な問題である。一九二〇年五月一二日、米國は英國のメソポタミア地方に於ける石油資源の排他的獨占計畫に對し、抗議を提出し、一九二〇年七月二八日、英佛兩國がサンレモ石油協定に調印せる事實が明瞭になつた時、七月二八日、米國政府は更に一層峻烈なる抗議を致したのである。此の協定に因れば英國政府がメソポタミアに於て得る石油の二割五分をカレント・マーケット・レートで佛國に讓與すること、若し石油が私會社に依り採掘せられたる場合、佛國は該會社のストックの二割五分を購入し得ることになつてゐるのである。米國政府の致せる抗議の要旨は斯の如き兩國間の協定は國際紛議の主要なる若干の禍根を、將來除去せんが爲に、設定せられたる委任統治の原則の重大なる違反であるといふに存したのである。是等の抗議に對しカーゾン卿は、世界に於ける石油產額ペトロリウムの八割以上は米國の監理の下にあるとの事實に顧れ

ば米國政府に依り引用せられたる石油オイルに關する英國の活動に付き米國輿論の過敏は甚だ理解し難しとの辛辣なる回答を與へ、而してメソポタミアに於ける委任統治の原則に關する米國の主張は之を理事會に委したのである。

石油に關する兩國間の紛議は遂に九月二〇日、米國をして同盟並に聯合國の一員としての權利を主張せしむるに至り、又事實國務卿コルビー氏は委任統治に關する諸原案が理事會を通過する以前、米國をして慎重なる考慮を爲さしむる爲に、米國に交附せらるべきことを要求したのである。思ふにヴェルサイユ條約第一一九條に因り獨逸が其の海外植民地を主たる同盟及聯合國の爲に拋棄したることは事實である。従つて、米國は主たる同盟國の一員たるが故に、米國の同意なくして之等の植民地をB式及C式委任統治區域として、割當てることは不可能な筈である。併し乍ら、同條約の第二二條は委任の諸條件が、聯盟國が若くは理事會か、二者中其の一に依つて決定せらる可きことを規定してゐるのである。而して米國は此等二者中の孰れの資格をも保有してゐないのである。而かも米國はヴェルサイユ條約を批准せず、又如何なる對獨平和條約をも締結してゐないのである。米國の無批准は一切の法律關係を複雑ならしめ、混亂せしめたのである。A式委任統治―シリア・パレスチン及メソポタミアに關しては米國は土耳其に對して宣戰せず、又セーブルに於ける對土平和條約に調印せず、ローザンヌ會議にも正

式に参加するを拒絶し、單に非公式の參列者を派遣するに止めたるが故に、一層事情をして困難ならしむるに至つたのである。

さあれ、世にも無遠慮なる米國政府は此等の法律上の困難に拘泥するところなく、一九二一年二月二一日聯盟理事會に覺書を提出し、其の主張を固執し、メソポタミアに於ける石油に關し機會均等及委任統治請求權の要求を反覆し、且つC式委任統治の下に日本に宛行はれたるヤツプ島に對し、新に抗議を提出したのである。其の理由とする所は、ジェルサイユ條約第一一九條は獨逸が其の海外領土に關する一切の權利及權原を主たる同盟及聯合國の爲に拋棄すと規定してゐる。而して米國は其の一國であり且つ日本政府はジェルサイユ條約或は同條約締結前の商議に依つて何等の權利を得可きものではない。蓋し米國は聯盟規約或は本問題に關する如何なる條約にも參加してゐないからである。米國政府は、其の後如何なる理由に依り、米國の同意なくして委任統治を與へんとせるかを解することが出来ない。聯盟は妄りに合衆國を拘束するの權力なく而して聯盟理事會が一九二〇年一二月になせるヤツプ島委任統治の是認及其の統治條項を決定したることは、米國にとりて何等の效力を有せざるは明白なる事實である。ヤツプ島の處置に關する前大統領ウキルソン氏の態度は今年三月三日國務省より發したる陳述書に明記せられてゐる。氏の云ふところに依れば、一九一九年五月七日の四大國會議決議に因り、

ヤップ島を日本に割當てることゝしたるはイマン・デヴィスより初めて聞知したのである。ウキルソンは當時デヅキスに對し、予は未だ曾て斯る協定に同意したることなしと告げたのである。更に最高會議の議事は決定的ではない又決定的とするを得ざる性質のものであるから、ヤップ島を日本に割當てる決定に對して合衆國が一個の抗議を提出せざりしといつて、合衆國の權利を放棄したるものとして其の效力を認む可きではない。ウキルソンは又予は屢々機會ある毎に、ヤップ島問題に關して特殊の主張を提出し、同島は何れの一國の委任統治地域中に加ふ可きものではなく、唯海底線の目的のみに其の權能を附與すべきものなりとの意見を固執したといつてゐるのである。ヤップ島に關しては米國は未だ嘗て何等の條約を締結したることもなく、又何人と雖同島に對する合衆國の權利又は利益を讓渡し又は放棄せしむることは出來ない。此の事實に鑑みて合衆國政府は同島に對する合衆國の權利又は利益は最高會議又は國際聯盟が之に對して何等かの議決をなせし以前より存在したるものであるとの理由の下に、之を放棄したるに非ざること及合衆國はヤップ島を日本に割當てること及日本が委任統治に任ずるの合法なることを承認すること能はざる旨を主張するものである。又合衆國政府は曩の通牒に明確に記述せるが如く、ヤップ島に對して別に獨占的利益を追求するものではなく且つ列強に附與せると同様の特權を有すること以外何等の特權をも獲得せんと欲するものではない。といふ

のである。以上は數次交換せられたる日米往復文書中の主要なるものゝ一に付き摘記を試みたのである。之に對し日本政府の回答を記述するが順序であるが、相當複雑せる問題であるから煩勞を避けて茲には之を省略することにする。併し乍ら、吾人として唯一言すべきは米國の諸種の抗議が常に米國の主たる同盟及聯合國の一員なる事を基礎として立論せられたることである。吾人と雖米國が主たる同盟及聯合國の一員たりしことは承認する、併し乍ら、米國は對獨平和條約を批准してゐないから、該條約は米國に對しては何等の效力を發生してゐない筈である。換言すれば米國は契約の當事者に非ざるを以て、契約自體より生ずる利益を享有することを得ないのである。一步を譲つて米國も當事者であるとの理由に基き、對獨平和條約の效力發生が米國の批准を條件とすることゝなれば、該條約より發生せる總ての結果は、米國の單獨講和等對獨條約を批准せざることが確實明白になつたときから悉く效力を喪失することになるのである。従つて米國に付ては同國の權利、義務、權力及責任が全然削除せられたものとして考ふ可きである。若し然らずとせば米國は自己の義務を否認し得可き條約の下に、單に權利のみを享有し得る特殊の地位に立つことになるからである。平和條約の末文にも批准寄託の第一回調書は一方に於て獨逸國、他方に於て主なる同盟及聯合國中の三國が本條約を批准したる後直に之を作成すべし。本條約は之を批准したる締約國間に於ては前記第一回調書の日より之を實施



す。他の一切の關係に於ては本條約は各締約國の批准書寄托の日より該國に對し之を實施すと規定してゐるのである。由之觀是平和條約が米國に對し何等の效力を發生せざることは火を賭るよりも明白である。

米國の抗議に對する日本政府の辯駁が極めて論理的且つ合法的なりしに關せず、結果は之に反して日本に不利にして米國に有利であつたのである。米國は實に豫想以外の僥倖を贏ち得たのである。即ち一九二二年二月、ヤツプ海底線に於ける米國の利益は日本との特別條約に因り、保障せらるゝに至つたのである。加ふるに又同盟諸國はB式委任統治案に關しても米國との協議を受諾し、米國の石油會社は四分の一利權を獲得する約定を確保したのである。此等の問題解決の鍵は要するに法理に存せず、歐洲列強の米國に對する債務關係にあるを以て、已むを得ざる結果と見るの外ないのである。かくして偉大なる米國は受任諸國との諸條約に因り、若干の委任統治地域に於て聯盟國と同等の權利を確保し、而して米國の既得財産權尊重の保障及委任統治の施政報告書寫本の送達を受くる約束を得たのである。

## 五

A式委任統治はシリヤ、メソポタミア及パレスチンに對するものである。約六百五十萬の人民は概してアラ比亞族であつて、アラ比亞半島、北阿弗利加及其の他の地方に散在するアラ比亞

族の分數を代表してゐるのである。併し乍ら、英佛兩國の帝國主義と、阿拉比亞民族自決との葛藤は最も銳角的なものである。英米兩國のシリア及メソポタミアに於ける公表の目的は土耳其の壓制より此等兩國を解放し、人民自身の自由撰擇に依る原住民政府の建設を獎勵援助し、而して之を承認するに在るのであつて、一九一八年一月七日に於ける英佛兩國の宣言は少くとも其の趣旨に基いたものである。同一の精神に基き規約第二二條も、亦従前土耳其政府に屬したる或る部族は獨立國として假承認を受け得る程度に達したり、尤も其の自立し得る時期に至る迄、施政上受任國の助言及援助を受くるものとす。前記受任國の選定に付ては主として當該部族の希望を考慮することを要す、と規定してゐるのである。

A 式委任統治は明に、理論上、阿拉比亞國を完全なる獨立國に導く爲に、考按せられたる單なる經過的屬領である。ラバノンを含むシリアに對する佛國の委任統治は明白に土人權力との協定に基く組織法の構成に付て而已ならず、又獨立國として、シリア及メソポタミアの進歩的發達を援助する爲に、法規を制定すべきことを約定してゐるのである。英國はバレスチンに於て立法行政に關する完全權を有してゐるのであるが、地方自治を獎勵し、猶太國の設立竝に自治制度の發達を促進する義務を負擔してゐるのである。メソポタミアに於て英國は既に阿拉比亞王國を設立し、而して聯盟加入に斡旋努力すべき旨を誓約してゐるのである。

A式委任統治の他の一般的特徴は受任國が其の統治地域の信仰の自由に干渉すること、宗教上の理由に基き住民に對して差別待遇をなすこと、學校を通じて自國國語を課すること、他國に對して委任統治地を讓渡すること及經濟的門戶開放に違反することを禁止せられてゐることである。單にシリアに付てのみ云へば原料利用の獨占的特權の附與、特權附與に當り、他の聯盟國に對して差別待遇を爲すことを禁止せられてゐるのである。

シリアはA式委任統治中最も重要性を帶びたるに不拘、其の施政は最も不成功たるを免れない。シリアは大戰の終熄せんとする頃、英軍及アラ比亞軍の力に依り、土耳其より解放せられ、而して英國の援助に依りプリンス・フエイサルはシリアの實際上の支配者としての地位を占め、佛國外相も亦同殿下が大多數人民の支持を受けつゝあるの事實を認容したのである。平和會議開催中にウキルソン大統領がシリアに派遣したる調査員某は調査の結果シリア人民の一般的希望は獨立と、他のアラ比亞族との聯合にあること、而して受任國として第一候補に米國を、第二候補として英國に期待せることを探知したのである。然るに佛國は土耳其掠奪物の分前として、シリアを得んことを固執し、而して一九一九年、佛國軍隊をシリアに派遣して英國占領軍に代らしめたのである。アラ比亞の先覺者は一九二〇年三月、ダマスカスに於てシリアの名望家よりなる會議を開催し、大に反對の氣勢を擧げ、而してフエイサル殿下をシリア及バレスチ

ンの王に選定し、其の兄弟のアブダラーを任命してメソポタミアの王たらしめたのである。併し乍ら、佛國は之が爲に其の志望を變更することなく、又之に依つて其の當初の目的を阻止せらるゝことはなかつたのである。シリアに於て九萬の佛兵を統帥せるゴロー將軍は寧ろ彈壓的に佛國の委任統治を承認せしむる爲に、フエイサル殿下を召喚して強要するところあり、殿下は已むを得ず之を承認したるも、即後其の支持者と佛軍との間に戰鬪の開始を見るに至り、フエイサル殿下は敗北してシリアを追放せられ、英國の意に依りイラク國（メソポタミア）の國王となつたのである。

此の不運なる出來事は手初めから不利益を齎したのであつて、佛國の行政官は其の着任と同時に、阿拉比亞政府を破壊して新政府を樹立し、原住民の反抗に打克たねばならなかつたのである。地方の希望を充足する爲にシリアを五單位に分割し、南方に於てラバノンの山嶽地方を擴張して、大ラバノンを形成し、與ふるに獨立の行政を以てし、國旗の所有をも承認したのである。ダマスカスの南東、丘陵地方がドールスとして知られたる教派の住居地帯——ジエベル・ドルスの自治地方を構成する爲に分割せられ、其の殘部地方即ちダマスカス、アレソポー及アララキトの三地方が聯邦を組成したのである。聯邦各國は各自代表會議を有し五名の代議員を聯邦會議に送り、而して聯邦會議は順次に聯邦の大統領を選定する權能を有してゐたのであ

る。此の制度は佛國外務大臣の任命に係る佛國最高委員の統轄の下に、佛人官吏制度と相對し、其の支配を受けてゐたのである。其後一九二五年、阿拉比亞族が分割を好まずとの理由に基き、ダマスカス及アレツポーはシリアに結合せられ、アラヤキトは完全なる自治を享有し、而して聯邦制度は解散の運命に逢着したのである。

此の新統治方法が未だ充分に行はれざるに先立ち、シリア人の叛亂に因り形勢が重大化したのである。急激なる佛國內閣は最高委員としてサライユ將軍を任命したのであるが、其の任命は決して上乘の策ではなかつたのである。同將軍の抱懷せる反教權擴張主義はシリアに於ける唯一の佛國派を怒らしめたのである。換言すれば少數の耶蘇教徒と其の專横なる行爲とは他の諸團體の憤怒を購ふに充分であつたのである。叛亂はドルーズ族内に燃え上つたのである。

サライユ將軍が秩序を回復せんと欲して、村落を焼き、ダマスカスを包圍したることは、事態をして益々危險に陥らしめたに過ぎないのであつて、叛亂はシリア以外の他の方面に擴大せらるゝに至つたのである。狼狽せる佛國政府はサライユ將軍を召喚し憲法々規の革新を誓約し、而して占領軍の増員を敢行したのである。新知事は和解的態度を持して叛徒の鎮壓を試みたのであるが、シリアの阿拉比亞國家主義者は國民的政府の下にシリアの統一を要求したのである。

思ふにシリアの叛亂は委任統治制度の手酷びしい一の試練であつたのである。常設統治委員

會は佛國に對し特に叛亂に關する報告を要求し、該報告を慎重に審査すると共に、佛國代表者の説明を聴取したる後、該報告が委任統治委員會の期待に反する旨を宣明し、サライユ將軍がカルビュ大尉をして、曩にサライユ將軍の先任者がドルーズの族長と協議の結果、作成する自治尊重に關する協定を破らしめ、土地所有權及公共事業に關し、急激なる革新を企圖せしめたるを批難し、叛亂の一誘因はドルーズをして強制勞働の形式に於て過度なる要求に服従せしめたることであるとい何等潤飾するところなく、率直に述べてゐるのである。此等の批難は佛國の一雜誌が云へる如くに寧ろ苛酷なる論評であつたに相違ない。併し乍ら、同雜誌は委員會を賞揚し、佛國が忠實に委任統治の原則を實行し、直摯なる態度を以て委員會及聯盟と共働すべきことを慫慂したのである。佛國政府は此の精神に則り、委員會及理事會を説得する爲に、帝國主義的支配の舊政策を廢棄し、シリアに自治政府を置かんとす意圖ある旨を明にしたのである。

アラ比亞族の國家主義と佛國の帝國主義との確執はシリアに於ける佛國の委任統治をして、他の植民地に比し、一層不成功に終らしめたと共に、豫想以上の多額の經費を支出せしめたのである。一九二五年一〇月二一日に至る迄の軍事費二四億六千五百萬フランに上り、シリアに於ける收税は唯僅に其の一小部分の支拂に充當するに過ぎず、而して一九一九年より一九二五年十一月五日に至るの間佛國占領軍の戦死者及死亡者數六千六百二十二人に達したのである。

之を以て觀ればシリアに於ける佛國委任統治は佛國民に取つては極めて高價なる贅澤品であつたに相違ない。

パレスチンに於ける英國の施政はアラ比亞の國家主義に對し、一層思慮ある、一層永久的な方法に依り鬭争を續けて來たのである。英國の行政官は問題を處理する點に於て遙に佛國行政官を凌駕してゐたのである。パレスチンはシリアと同じく一のアラ比亞國であつて、一九二二年の調査に依れば全人口七五萬七千人の内少くとも五九萬一千人は回々教徒であり、而して七萬三千人の耶蘇教徒の多くはアラ比亞人であり、唯八萬四千の猶太人があつたに止まるのである。併し乍ら、英國は委任統治條項の下にパレスチンに於て猶太人の爲に、一國家を建設せんとし、猶太人の移民を容易ならしめ、公有地及荒蕪地に猶太移住民の定住を促進し、猶太人をしてパレスチンに於ける市民權を獲得せしめ、而して猶太人の移住に影響する經濟的、社會的其他の事情の諮問機關としてジョニスト組織を承認したのである。

此の留意すべき計畫は一九一七年一二月二日のバルフォア氏の宣言に胚胎したもので、其の宣言はジョニストの計畫援助を保障したものである。バルフォア氏をして斯の如き宣言を發せしめたる最も重要且つ有意義なる理由は、第一に英國帝國主義者の希望である戰略上スエズ運河を保護する爲に、パレスチンの支配を確保することである。第二に斯の如き宣言は世界を通

じて猶太人の有する有力なる勢力及財政上の支持を、同盟國の爲に購ひ得るといふ信念であつたのである。

パレスチンに於けるアラ比亞住民が、英國のパレスチンの受任國となり、而してジオニストの計畫の委任統治契約中に記載せらるゝことを知つた時、擾亂と反抗とが起つたのであるが、英國は忌憚なく其の所信を斷行せんとし、夫の有名なる猶太系英人であるハーバート・サムエルをパレスチンに派遣し、一九二〇年より一九二五年に亙る英國の最高委員たらしめたのである。委任統治條項が起草せられ、一九二〇年一二月理事會に交附せられ、一九二二年其の承認を経て一九二三年に公表せられたのである。委任統治條項を起案し新政府を組織するに當り、英國はアラ比亞族を説得し、而して市民として民事並に宗教上の權利の寸毫も毀損せらるゝことなきを確信せしむるに、尠からぬ努力を拂つたのである。統治は官吏のみより成る行政會議及十名の官吏及十二名の被選舉會員―四教徒八名猶太人二名、耶蘇教徒二名―より成る立法會議の援助を以て最高委員に依り行はるゝことゝしたのである。然るに選舉が行はるゝ際、アラ比亞人が殆ど全部投票を差控へた爲に、ハーバート・サムエルは全憲法を放棄し、立法會議に代るに諮問會議を以てしたのであるが、其會議は任命官吏より成るものであつたのである。

併し乍ら、アラ比亞人の受動的消極的、反抗は猶太移民の流入を阻止することに成效しなか



つたのである。猶太の移民は主として波蘭及東歐より來り、年々數に於て増加の傾向を示してゐるのである。一九二五年にパレスチンに入込んだ猶太人の數は實に三萬三千八百一人の多數に達し、前年に比し驚く可き増加を示したのであるが、其の入國者の内若干はパレスチンに於ける農業勞働の價値少きを見て、即時パレスチンを退去したことも確實である。一九二五年に於て二千百四十一人より少からざる猶太移民が國家的安住地を見棄てたのである。併し乍ら其の大多數は留まつて市民となり、學校を設立し、産業を起し又は農園に定住したのである。一九二五年に於ける全猶太人の數は十萬八千人を降らざる可く、其の四分の三は都市に、其の四分の一は田園に居住してゐるのである。(一九二六年に於ては移民數に於て多少減少し、退去者に於て増加を見た如である)

若し此の事態にして持續せられんか、猶太人は事業界に於てのみならず、又知的並に政治的生活に於て優秀なる要素となることは明白である。若し國民的感情、國語及宗教の相違を除去し得るならば、パレスチンに於ける此の冒險は古く且つ進歩せざる國の經濟的救助及多邊的國民國家の創設に於ける興味ある實驗を見ることが可能かも知れないのである。確に道路は新設せられ、産業は創始せられ、不毛の地は開拓せられ、學校は建設せられ、マテリヤ其の他の疾病は甚だしく減少せられたのである。而して委任統治行政は眺望展開を保護する爲に、醜惡な

る廣告をさへ禁止したのであるが、此等の總ての便益が、善かれ惡かれ、アラ比亞政府の建設に憧憬せるアラ比亞人を納得せしむるに足るや、否や頗る疑問に屬する。

委任統治委員會は一九二四年一〇月パレスチン委任統治に關する第一回年報を審査し、ある種の委任統治に固有なる困難に付き、理事會の注意を喚起したのであるが、其の困難とは猶太の國民的安住地の建設と、同一國に於けるアラ比亞人の權利保護の調和との爲に生ずる障礙を意味するのであつて、英國行政官の顯智と公正とを以てしても、此の困難に打克つことを得なかつたのである。併し乍ら、聯盟は此の暗示の下に行動するを拒否し、而して英國はジオニスト計畫の廢止に關し、何等の言明を敢てしなかつたのである。猶太の國民的國家案の適用せらるゝ範圍がパレスチン委任統治地域の西方に於ける狹小なる部分に過ぎざることは注目に値するものである。トランスジオルダン又はケラツク・ジオルダン溪谷の東部―其の大部分が荒蕪地たるの故を以て人口稀薄の地方―はアラ比亞王エミル・アブダラーの下に自治を承認せられ、王は英人顧問、英國空軍及戰車並に小額の補助金に依り該地方を統治してゐるのである。

A式委任統治の内でも成功せるものは、現在イラクとして周知のメソポタミアである。大戰以前に於てさへ、既に低部メソポタミアに於ける英國の石油、海運及戰略上の利害は重大であつたのである。従つて一九一四年、土耳其と砲火を交ゆるに至るや、英國軍隊は直に該地方

に上陸し、又戰爭中同盟諸國の認容を得て、メソポタミアを占領し而してバグダットの北方約百五十哩に互る勢力範圍を設定したことに何等の不思議もない譯である。併し乍ら、英國は單に此等の收獲のみを以て満足せず、ロイド・ジョウジ氏は休戰後直にモスール石油地域を以て英國に割當てらる可きものとなし、大にクレマンソー氏に説くに其の然る所以を以てしたのである。(該地域はサイリス・ビュール條約に依り佛國の所屬となつてゐたのである)新協定はメソポタミアの石油に付て佛國の保有すべき割前、並にシリアに於ける佛國の計劃に關し、英國の同意如何に依つて、其の運命を決すべき狀態に置かれたのであるが、幸か、不幸か、交渉は良結果を生み、メソポタミアに於ける委任統治は一九二〇年の春、英國に割當てらるゝに至り、クレマンソー氏も涙を吞んで之を承諾したのである。委任統治の條項は一九二〇年一月に至る迄、聯盟の承諾を得る爲め聯盟に交附せられず、而して一九二四年迄メソポタミアの地位は決定的解決を見なかつたのである。斯の如き遲滯の理由は、米國との石油に關する交渉が長期に亘つた爲めであるが、メソポタミアに於ける諸種の困難なる事情も亦與かつて力があつた爲である。

メソポタミアに於ても亦シリア及パレスチンに於けるが如く、アラ比亞國の合同を標榜し、而してアラ比亞地域を數個の委任統治に分割すること及英國の施政に服従することを潔しと

せざる有力なるアラ比亞國家主義者があつたのである。彼等の鬱積せる不懺の情は遂に暴發して一九一九年より一九二〇年に至る間、重大なるアラ比亞叛亂の形態となつて現はれたのである。軍事的方法に依る不人氣なる施政維持が——若し他に理由なしとせば英人納稅者の負擔加重に對する抗議に依り——不可能なるを知悉し、英國政府は原住民慰撫の目的を以てバーシイ・コックス氏をメソボタミアに派遣したのである。氏は英人顧問と共にアラ比亞内閣を任命したのであるが、原住民者を永久的に統治する爲には、一王國の建設を以て緊要事と思考し、曩に佛國の黜けたる前シリア王フエイサルを迎へて國王となさんとするの決心を固めたのである。適當なる指導の下に選舉が施行せられ、フエイサル殿下は投票數の九割五分を獲得して、一九二一年八月二三日正式に王位に登り、英國最高委員は之を承認する旨を公表したのである。フエイサル王は單に其の臣下との關係に於てのみならず、英國政府の援助と友誼とに對する確固たる信頼に於て、充分に思慮と分別とを發揮して、政治家らしい統治者たることを立證したのである。

英國はフエイサル王と同盟條約を締結し、一九二二年之が調印を了したのであるが、此の條約は固より委任條項を包含してゐたのである。宗教上の自由、學校に於ける土語の使用、少數者の權利、門戸の開放が一般委任統治の場合に於けるが如く、保障せられてゐるのである。英

國は軍事上及財政上の援助を包含する援助及勸告をイラク國に與ふると共に、一方に於てイラク王國は國際上及財政上の義務並に英國の利害に影響する一切の重要事項に關して、最高委員の勸告的指導を承認したのである。而して補充協定として英國官吏の定足及俸給額の決定を見たのである。又イラク條約は、英國がイラクの聯盟加入を出来るだけ速に周旋するの勞を採ること及び之に依つて該條約及受任國後見の廢止に付き規定してゐるのであるが、斯の如き規定は規約第二二條規定の趣旨に尠からず適合せるものと稱す可きである。イラクの聯盟加入が不可能なりし場合には該條約の效力は二十個年繼續するのであるが、其の後一九二三年の協定に依れば四個年に短縮せられたのである。併し乍ら、理事會の決議の條件の下に、モスールを確保する爲に、英國はイラクに對する條約上の義務を二十五個年に更新することを承認したのである。換言すればイラクの聯盟加入に依る期限短縮を條件として、受任關係を二十五個年に延長したのである。

此の委任統治制度原則實施の方法は理事會の承認を得たのである。一九二四年九月二七日、聯盟理事會は英國が規約第二二條を實施するものとして、英國の補充的保障と共に、イラク條約を受理したのである。固より年報は此の場合に於ても提出せらるゝこと、統治の條項は理事會の同意を以ての外は變更せられざること、及英國の義務がイラクの聯盟加入と共に終了する

この條件の下に、受理せられたることは云ふを俟ないのである。

英國委任統治の延長は高價なる義務を英國に負擔せしむとの批難に對して、ボルドウキン首相は、委任統治は最大限度の二十五個年が経過する以前に於て解除せらる可く、而して英國は金錢の消費、軍隊の駐屯を要求せられず、唯協力と勸告とを與ふるに止まると辯明してゐるのである。事實問題として英國は一九二五年にメソポタミアの占領及施政の爲に英貨百五十萬磅を費消し、英國占領軍は若干の空軍及歩兵一大隊に減少せられたのであるが、尙ほ年々英貨四百萬磅を費消してゐるものである。放資に對する報酬はメソポタミアの將來の發展如何に關する問題である。恐らく英國の政治的勢力は排他的試掘權に對する一九二五年の特權を確保する爲に、英國監理の土耳其石油會社を援助したのであらうが、會社の利潤の大小は土耳其とのモスール境界紛擾の解決、試掘の成否、石油井の穿掘及シリア海岸に至る輸送管の建設如何に關係することが多大なのである。境界問題は土耳其の讓歩に因り一九二六年六月八日決定し、其の國境は一九二四年理事會の決定したる暫定國境所謂ブラツセル線に遵據し之に對し極めて僅小の變更を加へたものである。兩國々境間に七十五基米の武防備地帯を設け之を以て相互の國境安全を保障し、締約國は相互に非侵略の約束をなし、ロカルノ條約の精神に則つたのである。又イラク政府は全イラクに於て許可する各石油會社より徵收する特許料の十分の一を土耳

古政府に與ふることになつたのである。之れイラクが爲したる主要なる讓歩である。英國政府は土耳其に對し財政的便宜を與ふことを約束したのである。英國の一貫せる強硬にして且つ耐久的なる外交が遂に勝を占むるに至つたのである。同様に棉花及穀物も重要な財産であり而して絶えず増加しつゝある灌漑地域に栽培せられてゐるのであるが、此等も亦灌漑地域の擴張及イラクの一般條件に關する問題である。英人納税者は、後述の如き人道上の改良及經濟企業が過大なる軍事費支出後、財源涸渴の爲め不利益なる状態にありしに拘はらず、友誼的且つ明白に鞏固なる原住民政府の確立、鐵道組織の擴張、農業の獎勵、近代的教育制度の基礎確立、病院の設備及傳染病の豫防等幾多の困難と戦ひ、英國の施政が、大體に於て成功せるを認むると共に、多少満足するところがあつたのである。

## 六

舊獨逸領植民地トーゴランド、カメルン及東部亞弗利加は六委任統治地域に分割せられ、佛國はトーゴランド及カメルンの大部分を、之に反して、英國は東部阿弗利加を獲得せしことは注目の價值が充分にある。白耳義は、最初、委任統治地域の分配に除外せられたることを憤慨し、英國を説服するに、コンゴ軍の占領したる東阿の北西地方を白耳義の爲に、抛棄せんことを以てしたのである。該地方は叢爾たる一小天地なるに拘はらず、人口及生産力に富み、

最良なる阿弗利加高地の若干を包有し、豊富なる家畜を有してゐるのである。

今試に是等のB式委任統治地域と、A式委任統治地域とを比較對照するときは、吾人をして全然別天地なるかの感を深うせしむるものがあるのである。B式委任統治地域は除外なく熱帶地方であり、其の多くは密生せる簑地であつて、熱帶地特有の驟雨に依り水浸しの状態に在るのである。住民は未開のニグロ族にして、民族自決といふが如き文化的使命に遠く、従つて此の場合に於ける委任統治は青春の國民に對するが如き一時的後見を意味せず、受任國の構成部分として統治すべき、充分なる行政及立法の權を、受任國に與ふ可き性質のものである。

事實問題として、可能なる場合には原住部族の酋長を通じての統治政策が、一般に行はれたのである。一九二三年トーゴランドに關する英國の報告が明示するが如く、英國が占領以來採用したる一般方針は原住民の統治方法及其の統治者を支持するに存したのである。一九二四年の白耳義の報告は、酋長は原住民政策の樞軸である……酋長の任務の重要は一次的であり、而して酋長制度の賢明なる組織は、行動の最も効果ある手段であり、酋長が歐洲勢力に左袒する場合には進歩が迅速であり、命令が保障せらるゝのであるが、之に反し、酋長が敵意を有するときは、原住民に對する歐洲勢力は期待の效果を生ずることを得ないといふ、極めて興味ある申告をなしてゐるのである。或る場合に於て酋長は租稅徵收權を有し——中央政府に對し一定



率の上納は云ふを俟ないが――又代理者として原住労働者の募集を行ひ、而して植民地法規及白人官吏の助言及命令に遵申するを條件として、一般に地方行政を委任せられてゐるのである。殊に英國は此の方法に執着し、著名の會長の存在せざる場合には、適當なる人材を見出し、故意に其の職權を設定したのである。此の方法は委任統治地域に於けると同様、英領西阿植民地にも行はれ、兎に角に、委任統治問題の一特色たるを失はないのである。此の方法を採用せざらんか、白人官吏登用の必要を生じ、而も熱帶地方に於て、過不足なき定數を得るは決して容易の業に非ず、従つて原住村落が部族制度を有せざる地方に於ては直接統治の必要を生ずるに至るのである。而して尙ほ斯の如き場合に於ても、比較的低級に屬する行政地位は原住者を以て、之に充當せざるを得ないのである。

B式委任統治と普通植民地の主要なる相違は、前者に在りては其の施政が原住者に對して、正當且つ教化的なりや否やに關して、責任の一層加重せらるゝものがあるのである。B式委任統治の諸條項は委任國が明白に且つ出來るだけ迅速に奴隸制度を廢止し、奴隸賣買を抑壓し、緊要なる公共事業を除く強制労働を禁止し、労働契約を監督して搾取より原住者を保護すべきことを規定してゐるのである。其の結果として受任國は、或る場合には原住者間に於て、國內的奴隸制度が行はれ、其の弊習は直に根絶し難き程根強く扶植せられてゐるのであるが、法律

を以て奴隸賣買を禁止し奴隸制度を廢止したのである。而して原住民勞働契約の條件を規律する公正且つ精密なる法規を公布したのである。武器及火酒類の輸入は一般に嚴格に制限せられてゐるのであるが、佛國の政策が有害なるホエスキー、ジン及ラム等の輸入を禁止し、葡萄酒及麥酒の如き衛生的飲料を獎勵せるは興味ある問題である。B式委任統治條項は又地方警察又は地域防衛以外、原住民軍隊の募集を禁止してゐるのであるが、此の點に關し、佛國政府は強固なる不満足を表明し、其の結果、佛國委任統治條項は、攻撃を斥け、領土防衛の爲め一般戦争の行はれたる場合に、原住民軍隊を―例へば歐洲に於て―使用し得、この規定を含んでゐるのである。佛國政府が其の重要を主張固執したるに拘はらず、又斯の如き條項の設定が規約第二二條の趣旨に悖り、委任統治制度と合致せざるに拘はらず、一九二三年より一九二四年に至るの間、報告書の記録するところに依れば、佛國カメルンに於ける原住民兵士僅に一〇一七人、佛國トーゴランドに於て四四五人に過ぎないのである。

原住民の福祉に影響を與ふる最も重要な問題は、衛生、教育、布教事業、土地及勞働である。衛生に關しては、經費の許す範圍に於て醫師の派遣を怠らざる如く、佛國の如きは一九二二年にカメルンに於て二〇萬人に對し種痘を行ひ、以て其の誇となしてゐるのである。布教團は宗教上の自由を保障せられ、而して教育事業の大部分に關與してゐるのであるが、其成績は

著しからず、例へば佛國カメルンに於て、一九二四年に布教學校に於ける原住民の生徒數四七〇〇人に及ばず、政府設立の官立學校の生徒三三〇〇人、人口千人に付三人以下の割合である。教育事業の困難なるは云ふを俟たないのであるが、殊に原住民たると白人たるとを問はず、優良なる教員の招聘の困難、俸給負擔力の貧弱さが教育事業の進歩發達をして益々困難ならしめたのである。土地問題に關しては、嘗てケンヤ及コンゴの如き植民に於て、重大なる弊害を醗酵せる、權利及財産の剝奪を擁護する爲に、委任統治條項は受任國を拘束するに原住民の權利の尊重及利益の保障を以てしたのである。原住民は元來個人的不動産所有權の觀念を有せず、從つて問題は單純ではないのである。佛國は其の委任統治地域に於て果斷的措施に出で、一切の無住地及人民に依り利用せらるゝも、所有せられざる村落周圍の土地をも、之を國家の私有地に歸屬せしめ、直に土地所有權に關する歐洲的近代の觀念を適用せんとするの計畫に出で、此等の土地の賣却又は貸付を、個人又は會社に對して許可すると共に、一方に於て原住民をして土地所有の登記をなさしむることに努力したのである。タンガニーカに於て、英國は一切の土地を以て公有地なりとし、栽培者に對し九九ヶ年の使用貸借を許可し、賣買は全然之を禁じたのである。斯の如き方法が果たして二〇世紀に於ける土地政策の新傾向とも云ふ可き、原住民の權利の尊重及利益の保障に完全に適合せるや否や疑問である。元來植民者が土地の所有

を要求するは自然の理であるが、自由契約に放任するときには原住民の土地は植民者の爲に掠奪せらるゝ虞があるから、植民國は原住民保護の趣旨に基き之に干渉し、原住民の利益を甚だしく阻害せざる範圍に於て植民者の土地利用權を認めんとする傾向があり、又原住民の土地制度に對しても急激なる變化を試みず、其の共有制を有するものに付ては、寧ろ慣習を尊重し、之を維持するの傾向があるのである。かくて原住部落の土地制度に付て其の歴史性を認め本國の制度若くは植民者の營利上の必要を強制せざるに至れることは各植民國の苦き經驗を経て修得したる高價なる教訓ではないか、植民地と委任統治地域とは固より同一に論すべきではない、寧ろ後者に於て責任の加重せられたるを知るのである。然るに佛國が一切の無住地及利用せられゐるも所有せられざる村落周圍の土地を以て國家の私有地となし、原住民に逕進するに土地所有の登記を以てしたるが如きは、無住地又は所有地に關する法的觀念の相違せる、否斯くの如き思想だに有せざる、原住民に對して私有財産制度の下に於ける近代法治國家の通義を、直に、適用せんとするものであつて、極めて不自然なる措置といふ可きである。強制的勞働に關する委任統治條項は最も重要なものゝ一つである。蓋し亞弗利加植民地に於ける原住民は屢々、政府又は私人の利益の爲に、或は課税の代償として、或は又奴隸と識別し難き程度に於て強制驅使せられたからである。受任國は唯緊要なる公共事業に於てのみ、相當の報酬を以て、勞働を

強制し得るに止るのである。或る場合に於て、鐵道又は道路の如き公共事業に於ける勞働は課税の形式即ち夫役として――佛領トーゴランドに於ては年四回、佛領カメルンに於ては十日、タンガニイカに於ては夫れ以上――勞働が要求せられたのである。私人栽培地又は私人企業の爲にする強制勞働は法の條文の禁止するところであるが、或る地方に於ては會長又は村長が契約勞働に依り青年男子を募集することが在る。即ち一定の週間又は一定の月、契約の下に勞働に従事するのである。英領亞弗利加植民地政府が一九一九年に土人地域を所管する官吏は、健康なる土人男子をして白人所有の農場に於て勞働せしむる爲に、總有る適法的手段を講ずべし、會長及長老は此等の勞働の供給を以て其の義務の一端と心得可く、地方官吏は此 目的の爲に、有用なる會長と然らざる者とを區別して記録すべし、若し勞働供給難の尙ほ持續するに於ては之れ以外の特殊手段を用ゆるの必要あるべしとの訓令を發したことがある。此の訓令は多くの反對を招致したのであるが、植民大臣ミルナー卿は勞働の強制徴收は唯公共事業に付てのみ、之を是認すべく、私人の企業に對しては之を認容せざるの方針なりと言明し、第六回聯盟總會に提出せられし國際條約案第六條にも強制勞働は原則として公共事業にのみ限る可きものと、且つ現在私的企業に對して認めらるゝ植民地に在つては、漸次之が撤廢に努力すべきことを規定してゐるのである。併し乍ら、實際問題として、強制勞働の要素を全然根絶すること

は目下のところ、或は困難なるを免れないかも知れない。佛國カメルンに關する報告中の言葉を借りて云へば、確に原住民をして趣味を以て勞働に従事せしむることは容易な業ではない如うであ。

B 式委任統治の典型的特徴とも云ふ可きは門戸開放である。門戸開放は單に機會の均等を意味する。一切の聯合國の爲に經濟上、商業上並に産業上の完全なる均等が存在しなければならぬ筈である。天然資源の利用は國籍の差別に關係なく許可せられ、其の排他的獨占は禁止せらるゝのである。商業上門戸開放の有効なるは一九二四年迄佛國カメルンに於ける取引中英國が佛國を凌駕せる事實に徴するも明白である。併し乍ら、一方に於て資源開發の特權は多く受任國々民に依り申請せられ、許可せらるゝ場合が多いのである。率直に云へば門戸開放は一の現實であるかも知れない。此の點は受任國の負擔に歸する統治費用に鑑みれば、一層興味が深い如うである。タンガニイカ及英領カメルンに於ては英國納稅者の支出に俟つ可き一定の不足額があり、白耳義は統治豫算の平衡を得る爲に、年額一二〇萬フランクの補助金を支出してゐるのである。唯佛國のみが鐵道の建設其の他の公共事業の計畫に對し基金を作る爲に、統治地域に於て徵收する諸稅をして支出以上の餘剩を得るに適してゐるのである。

次に検討すべきは舊獨逸領南西阿弗利加及太平洋諸島に關してである。此等の地域は特殊の理由に依り別種の委任統治に附せられたのである。其の理由は濠洲政府が南太平洋諸島より日本人を排斥せんとする希望及英領南阿が舊獨逸南西阿弗利加を其の施政及特惠關稅の下に合同せしめんとしたる野心に存したのである。此等の委任統治區域には門戸開放主義の適用なく、又其の適用なきことがC式委任統治の特徴だとも云へるのである。他の著しき特徴は比較的少數の人口を有し、總計七十餘萬人に過ぎないことである。

日本に割當てられたる島嶼は、其の數に於て多く、其の重要性に於て乏しく、僅にケーブル又はラヂオ・ステーションとし又は貯藏所若くは有力なる海軍根據地として、其の重要を認めらるゝに過ぎないのである。而かも委任統治條項中の義務として、日本は同地域に陸海軍の根據地を設け、要塞を建築するを得ないのである。

赤道以南の舊獨逸領植民地は英國及其の自治領の委任統治の下に在り、新西蘭は戰略上の價値はあるが、地域の點に於て狹小なるサモアン島を撰擇し、濠洲はニューギニアの統治を引受け、英帝國は燐酸鑛年額二十萬を產出するナウル島を自國の爲め留保したのである。ナウル島を除き此等島嶼の主要なる產物は乾仁として輸出せらるゝ椰子の實である。

C式委任統治の内では南西阿弗利加が注目に値する。南西阿弗利加は黒白人間の積年の紛

爭が極點に達した、夫のボルデンツワルトの叛亂に因つて特に著名になつたのである。大戰前獨逸の支配下に於ては約一萬二千の獨逸移住者が在つたのであるが、其の多數は牧畜を營み、其の他は事業若くは有望なるダイヤモンド鑛の經營に従事したのである。獨逸の植民は原住民の不平不滿の素因を醸成したのである。蓋しホツテントツツ及バンダス族は白人の土地占領に嫌焉たらず、牧場又は鑛山に於て低廉なる賃銀勞働者の地位を強制せらるゝを欲せなかつたのである。勞働の強制は到る處に於て不人氣であつた。殊に南西阿弗利加に於て甚だしかつたのである。南西阿弗利加に於てはエロス及ホツテントツツが遼遠なる太古から夥しき家畜群及土地―其の土地は彼等が常に逍遙、徘徊した―の所有者であつたのである。歐洲侵入者との間に不斷の爭鬭が行はれ、歐洲人の寛容と政治的聰明とが彼等に遺したるものゝ外、一切の富は失はれたのである。何人と雖、現在土地を所有する農業者に對し、彼等の抱懷する感情を容易に理解することが出来るであらう。獨逸人に對する反抗は不斷の叛亂となつて現はれたのであるが、夫れは常に龍車に對する斧鉞であり、唯苦々しき人種的反抗を残して鎮壓せられたのである。英領南阿が支配するに及び、約八千の獨逸人が殘留し、數千の英人移住者と握手提携するに至つたのである。此等の白人農業者は殆ど五〇萬に垂とする家畜と、百萬以上の羊及山羊を所有し、之に反して原住民は僅に七萬足らずの家畜と、六五萬の羊及山羊を有するに過ぎ



ないのである。

英國は或る點に於ては、前任者よりは一層寛容なる政策の實行―例へば奴婢及勞働者に對する笞打の禁止の如き―に努力したのであるが、其の他の點に於て新地主は決して寛大ではなく、寧ろ苛酷に失するものさへあつたのである。獵犬過多の苦情に對し、一九二一年、英國の施政は一匹の犬に對し英貨一磅、五匹の犬に對して十磅の犬税を課したのである。原住民の貧困は斯の如き犬税の負擔に堪ふ可くもなかつたのである。従つて僅々四ヶ月間にボルデンツワルツ族の百人以上が犬税不拂の爲に、有罪を宣告せられ、二磅の罰金を支拂ふか若くは二週間を刑務所に過さざるを得なかつたのである。犬税及罰金の支拂を果たす爲に、原住民は白人經營の牧場又は鑛山に於て、已むなく勞働に従事せざる可からざるに至つたのである。犬税の賦課が原住民の不平を高潮に導いた間に、又他の不滿の素因が發生したのである。例へば浮浪者に勞働を課し、原住民に焼印の所有を禁止したるが如きである。其の結果は怨恨と敵意とを挑發助成し、ホットレントツツの如きは遂に白人に對し暴動を企畫せりとの情報が頻りであつたのである。

ホットレントツツの一小部族であるボルデンツワルツ族が一九二二年に叛亂を起こし六百足らずの戰士が予を執つて立たたのである。之に對し、英國政府は三九〇の兵士、機關銃及飛行機を

送り、飛行機は叛亂者の陣營を襲ひ、之を燒盡したのである。約百名の戦士及二名の小兒が殺害せられ、負傷者の數はホツテントツツ軍が退却に當りて收容したるを以て不明である。斯くして叛亂は鎮壓せられ、該部族共有の家畜は沒收の上、刻印を押捺せられたのである。

一九二二年九月ハイチの代表者は事件を聯盟總會に齎し、其の注意を喚起したのである。總會は事件を異議なく常設委任統治委員會の審査に附す可く決議し、同時に南阿政府は約するに事件の調査を爲すべきことを以てしたのである。統治委員會が一九二三年八月の會合に於て審査を開始せんとするに當り、南阿政府の公式報告が未だ提出せられず、審査の基礎材料は單に地方審査委員會の報告書——多數意見及少數意見を含む——に過ぎざるを發見したのである。而かも其の多數報告は南阿政府の否認に係るものであつたのである。其の結果委任統治委員會は研究の基礎たる可き有權的材料を持たなかつたのである。茲に於てかの南阿の代表者たるハアプスト少佐及エトガー及ウオルトン氏に對し、嚴正なる訊問を開始したる後、委員會は報告書を作成し、之を理事會に提出したのである。其の報告書は南阿政府が總會に對して爲したる、約定の違反として同政府を容赦なく批難したものであつた。委員會の大多數は南阿當局の爲したる犬税其の他の措置を以て不當且苛酷なりとし、而して該報告書は、政策にして一層聰明ならんか、叛亂は發生する餘地なかりしならんと言定してゐるのである。ボルデンツワルツの如き

事件は同一地方に於て以前にも起つたことがあるのである。唯新主義即ち受任制度が委任統治制度の下に施行せらるゝに至つた爲に斯の如き批難を受けたのである。委任統治委員長であるマアクキス・セオドリは、委任統治地域の關する限り、一般的に聯盟規約が、特定の云へば規約第二二條が受任主義承認の結果、植民地法及植民地行政を變化せしめた云つてゐる。此の受任主義の原則は從來と著しく相違したる諸種の利益並に行政的慣習に對し、ある種の態度の採用を意味してゐるのである。先づ第一に原住民の利益を顧慮し、而して白人の利益は直接又は間接に原住民を保護する關係に於てのみ考慮せらるゝことである。固より委員の大多數が之に共鳴し強調した譯ではないが、委員統治制度及聯盟が従前よりは一層受任制度を向上進歩せしめたることは事實である。委任統治制度の下に於ける義務は伯林決議に於ける義務よりは遙に嚴正であり、決定的である。今や國際的機關の制度が此等の義務を有效に履行せんとしてゐるのである。委任統治委員會はホルテンツワルツ事件に關し、何等目醒しき活動をなし、叛亂を防止し、救済の方法を可決した譯ではない。併し乍ら、世界に對し受任國の責任を確實ならしめたのである。

委任統治委員會の報告は之を結果より觀察する場合、疑もなく南阿に對する譴責若くは懲戒である。南阿代表者が大體次の如き陳述書を公表せる程不快なる、歡迎す可からざる譴責であ

つたのである。委員會は南阿聯邦が統治の責任を負担したる當時の南西阿弗利加の實情を全然理解せざるものである。委員會にして一度南阿の地を踏みしなれば、到底此の如き報告書を作成し得ざる可し、予は斯の如き報告書が南阿に於て惡感情を以て迎へらるゝを惧るゝ。にも拘はらず、一九二三年九月の聯盟總會はボルデンツワルト地方に於ける状態は未だ満足の域に達せずとの決議を表明したのである。

斯の如き國際的批難の下に、南阿は委任統治に關し提出すべき次回の年報を以て、從來異議ありし法規の改訂せられたること、家畜の大部分がボンデルスに返還せられたること、病者に對して施療を行ひ、貧者に對して食糧を供給したること等を報告し、加ふるに嘗て非難の焦點であつた行政官を次回の委任統治委員會に出頭せしめたのである。氏は南西阿弗利加に於ける紛争の根元を以て獨逸の鐵血的訓練より、英國の緩和政策に急變したる結果なりとし、其の例證として答罰の廢止を挙げ、原住者は英國の人道主義を以て英國々力の薄弱に歸し、祖先傳來の土地を回復せんとする希望に燃えつゝありと云ひ、特に南阿が一層仁慈なる法規に依り、原住者の保留地として、附加地の取消を行ひ、教育を促進して、諸種の狀態を改良したることを力説大に努めたのである。或る學者は黒人は勞働を強制せられてゐない、併し乍ら、其の慾望の擴張増進に伴ひ、經濟的壓迫の黒人をして職業を求めしむるに至る可きことを切望すと云つ

てゐる。固より一個の見識たるに相違ないが、急激なる社會的、經濟的生活の變化の爲に、彼等をして部族根絶の不幸に際會せしめざることを翹望して已まないのである。

## 八

ボルデンツワルツ事件が公的批判の有效なるを示したることは明白である。併し乍ら、此の事件は同時に又委員統治制度の根本的缺陷を剔抉したることも事實である。茲に缺陷といふは委任統治委員會が自ら調査委員を南西阿弗利加に派遣し得る資格なく、又南西阿弗利加より證人召喚の權能を有せざることである。唯其の權限とも稱すべきは、南阿聯邦をして更に報告を供給せしむる爲に、鄭重懇勸なる批判に依つて、控制すべき倫理上の抑壓を加へ得ることである。次で一九二五年シリアに於て叛亂が勃發せしときに於ても、委任統治委員會はシリアに於ける叛亂狀態を調査する爲に、何人をも派遣することを得ず、已むなく佛國に對し特別の狀況報告書の提出を要求したのである。一方的證據に過ぎざる利害關係國の報告を補足する爲に、聯盟の委任統治部は新聞、議會の討議其の他の諸材料より選り出されたる智識に依り、一件書類を作成するのであるが、斯の如き調査は到底植民地事情に通曉せる委任統治委員たる老練家の信憑を得るに足らないのである。監視者若くは調査員―關係者の報告書の不備不足を補足し得る―の派遣に關する聯盟の無能力は依然として閑却すべからざる、受任制度の弱點として殘

存してゐるのである。

國際聯盟は規約の包有する教化主義との調和を保ち、而して委任統治擁護の重大なる責任を負擔せるに拘はらず、聯盟事業遂行の爲に有する特殊の權限は到底不充分なるを免れないのである。聯盟には諸種の狀態の改良を促進するが爲に、命令を發し、不合理なる習慣を廢止する爲に禁令を保護するの權限がないのである。委任統治委員會は、受任國の行政に對して不滿を有する者が聯盟に向つて、其の意見を具申するの機會を與ふるが爲に、委任統治地域住民の請願を審査する權能は有してゐるが、委任統治條項に關する異議申立の請願を受理審議するの權限なく、統治の條項は唯理事會のみが之を變更し得るに過ぎないのである。現在に於て、凡ての受任國が代表者を出せる理事會のみが、委任統治條項を變更することを得、而して理事會の決議が満場一致を要するとせば、委任統治條項の變更は、受任國の同意なくしては殆んど不可能である。而して受任國は聯盟の任命するところに非ずして、同盟國の選定するものなるが故に、一受任國が失政の理由に依り、委任統治を喪失することは蓋然性に乏しい如うである。試訴は恐らく奇異なる法律的錯綜を惹起するであらう。併し乍ら、斯の如き試訴が起り得ることは極めて稀有に屬する。委任統治委員會さへも、委任統治の移轉は遠き將來に於ける未必事項だと云つてゐるのである。

次に基礎的な問題は規約第二二條が巧に回避したる主權又は最終權力の問題である。換言すれば委任統治區域の法的地位に關する問題である。

此の點に關しては少くとも四様の解釋があり、從つて議論が一致してゐない。受任國が其の割當てられたる地域を併合せりとなす說、委任統治地域が主たる同盟並に聯合國に共同的に所屬せりとなす說、權原の二重なるを必要とし、一は主たる同盟國に依り、他は聯盟に依つて與へらるゝとなす說、國際聯盟が委任統治地域に對し、完全なる支配權を有すとなす說に分れてゐるのである。

聯盟規約第二二條の實行に關するハイマン氏の報告書中に、委任統治に關する法律的權原問題は單なる形式の問題として手輕に考へられ、而してB式及C式委任統治にあつては受任國が規定の義務に従ひ、完全なる主權の行使を有すと推定せられたのであると云つてゐる。併し乍ら、單なる形式が決して單なる形式として終らず、直に實際的、法律的並に物質的困惑を招致したのである。統治地域の住民が旅行券を請求する際、如何なる國籍を要求し得るか、受任國がその統治地域の住民に對し、其の國籍を與へ若くは之を強制し得可しとせば、委任統治地域は殆ど併合と擇ぶところはないのである。此の問題は嘗て南西阿弗利加に居住する獨逸人の國籍に關する問題が一九二二年八月委任統治委員會の審議に附せられ、一九二三年四月理事會に

依り多少の變更を加へられたとき自ら其の決定を見たのである。其の決定に依れば委任統治地域の原住民は別個の國籍を享有し、受任國の保護を受けるの理由を以て、受任國の國籍を有するものと見做すことを得ないのであるが、自發的には受任國に歸化することを得ることになつてゐるのである。之に依て觀れば委任統治地域が受任國に併合せられたるに非ざることは明白である。

次に公有地の所有權は何れに歸屬すべきであるか。佛國はトーゴー及カメルンに於ける公有地を佛國の公有財産として取扱つたが、此の場合に於ける解答は斯の如き公有地及剩餘金は統治地域の財産と思惟せられ、而して該地域の便益の爲に費消せられざる可からずと云ふことである。此の點に於て又受任制度が併合と區別せらるゝを知るのである。

一九二二年の夏、南阿聯邦の委任統治地域である南西阿弗利加に於て叛亂が起つた際、其の主謀者を處罰するに當り初審裁判所に於ては、之を以て叛逆罪を構成するものと看做したのであるが、南阿の最高法院に於ては、叛逆罪を以て主權者に反抗するの行爲となし、南阿聯邦は南西阿弗利加の主權者に非ざるが故に、叛逆罪を犯したるものとして、主謀者を處罰する事を得ずとの判決を下したのである。此の判決は委任統治地域が受任國に併合せられたるに非ざること立證するものである。



尙は一層緊要なるは受任國が自國に於けるが如く、其の委任統治地域に於ける貸付、公私資本の投下の保護を保障し得るや否やの問題である。遠き將來に於ける委任統治の廢止、移轉又は終了の可能不可能性は、斯の如き放資の障礙たるに充分である。而かも放資は委任統治地域の經濟的發展を遂ぐるに緊要なる必要事項である。其の結果として一九二五年九月の理事會は、委員會の請求に基き、財政上の義務並に既得權に對しては、受任國が主權國同様の權力を有すること並に財政上の義務の履行、既得權の尊重を理事會が確信するに至らざる限り、委任統治の終了、若くは移轉の不可能なる旨を宣明したのである。

主權の問題は一九二五年に委任統治委員會が南阿聯邦と南西阿弗利加との事實上の結合に關し、相當有力なる議論が南阿に於て行はるゝを知るに及び、更に具體化するに至つたのである。聯邦を代表する最高委員は南西阿弗利加に對し、將來或は獨立の時機の來る可きを豫想し、而して其の場合に於て、白人支配階級が聯邦を構成する國家の一員として、南西阿弗利加の加盟を承認する條約を協定し得と信じたのである。此の問題に關しては見解の相一致せざるものがあるのであるが、委任統治委員會の權威ある解釋は、僅に一萬そこゝの白人移住者即ち少數者の要求に基く委任統治地域の併合は、疑もなく、委任統治の精神に違反するといふに存したのである。

以上の事例に依り考覈するときは、聯盟が受任國に對し主權を授與せざりしことは明白である。

主權が聯盟に屬すとの説は規約第二二條第二項に於て受任國の行ふ任務は自己固有の權限に基くものに非ずして、傳來的のものであり、聯盟の名に於て行ふと規定してゐる點に基礎を置いてゐる。此の點より考察すれば主權は聯盟自體に屬し、受任國は其の委任を受けたる一種の委任に基く代理關係にある如くにも思はれるのであるが、聯盟が其の甚だしく制限せられたる權能を以て夫れ自體主權を享有せざる事は一層疑惑の餘地がない如である。又或る學者は、舊獨逸領植民地は從來の主權者たりし獨逸が國際聯盟の爲に拋棄したるに非ずして主たる同盟及聯合國の爲に之を拋棄したることは對獨平和條約第一一九條の明定するところであつて、其の後主たる同盟及聯合國に於て、更に之を聯盟に讓渡したる證據の存せざる限り、聯盟に主權ありと云ふことを得ずと主張してゐる。主權が主たる同盟國及聯合國に存すとなす説に對する非難は、規約第二二條の解釋と牴觸を生ずる而已ならず、主たる同盟及聯合國中の米國は非聯盟國たるに、委任統治制度に關する聯盟の監督を認むる結果は、理論上此の制度の關する限り、聯盟の米國に對する監督を認めざる可からざる事になる。然るに事實は之に反し、實質上聯盟國と同様の權利を得てゐるが、受任國に非ざる故に聯盟の監督は受けてゐない、占領地保有主

義に依れば戰勝國に一括して移轉したる如く見ゆるも此の主義を容認せざる限り正當でないといふのである。主權の所在に關する研究は最も重要なに相違ないが、本論の目的以外であるから、更に筆硯を新にして之を論究することゝし、茲には規約第二二條の規定の遑漠より生ずる實際上の困難は何人と雖識別し得ることであり、而して現在の委任統治制度に固有の缺點を構成するものなることを注意するに止めたいと思ふのである。

## 九

併し乍ら、委任統治制度は決して無益なる存在ではない。規約第二二條規定の諸條件の下に、委任統治委員會は唯、受任國の年報を受理審査し、委任統治の實行に關する一切の事項に付き、理事會に意見を具申するの特殊の權能を有するに過ぎないのである。にも拘はらず、委員會の事業は驚嘆に値する程、有效且つ有意義なものであつたのである。此の幸運なる結果は之を委員任命に際して、發揮せられたる叡智と周倒とに歸し得るかも知れない。五名の委員は非受任國より選定せられたるを以て、従つて受任國の施政を批判するに當り、忌憚なき言論を敢てし得たのである。而して四名の委員は受任國々民にして、其の選定の條件は國家代表としてに非ず、植民問題に通曉せる達識の士としてゐる。例へばニガリアの前英國知事フレデリック・ラツガード氏は博覽強記、經驗に富む植民地行政官たるの故を以て選定に入り、而して他

の委任統治に對すると同様に、英國委任統治の批判に於て、公正なる意見を吐露し、而も其の意見は俄に他の追隨を許さないものがあるとのことである。

今試に受任諸國の年報と、常設委任統治委員會の報告書並に議事録とを比較對照するとき、委任統治に關する年報の受理審査の權能が、寧ろ夫れ以上に及べることを理解し得るであらう。委員會は質疑の方法に依り、受任諸國が寧ろ放任を希望せる問題に付ての報告を受け、又受任諸國の年報に對し、詳細なる論評を加へ、以て新政策若くは希望せる目的の達成に付き改善の方法を暗示し、其の施政を批難するに當つては、強大國と弱小國との間に差別を設けることなく、公正なる取扱をなし、言辭鄭重、事理明晰を極め、而して施政に對して賞讃を與へ、又暗示に基き爲されたる變更に對し、鑑賞的評價を以てしたのである。

委任統治委員會の活動範圍及其の精神を評價せんとせば、其の報告書の内容に付き檢討することが必要である。カメルンに於ける英國の報告を論評して、委員會は公衆衛生の不満足なる状態に付き英國の注意を喚起し、而して英人醫師の雇傭が困難なる場合、他國の醫師を招聘すべきことを提議し、又一九二五年、佛國がトーゴランドに於て職業的及農業的訓練の發展に對し、特殊の注意を拂へることを稱揚し、前年委員會の表明せる意見に合致せるものなりと謂ひ、南阿聯邦に對しては原住民の實業教育に關し支出の増加を希望し、パレスチンのトランス

ジヨルダン地方に於ける奴隸制度廢止に關する報告を求め、而してパレスチンに於ける村立學校に對し、支出増加の希望を述べ、一九二四年、英領カメルンに輸入せられたるジン酒の數量増加に付き、質疑を試み、而して此の地方に關する次回の報告に於て、原住民生活の社會的及道德的進化の指導並に非人道行爲である人肉嗜好の弊習を除去する爲に、農業方法の改良に關し當該受任國の有する決定的計畫を明にすべきことを要求し、而して白耳義に對しては其の統治地域に於ける會長の要求せる一年四二日間の勞働徵收及道路事業に對する夫れ以上の強制勞働が委任統治の精神と撞着することなきや否やの説明を要望し、佛國カメルンに於けるミツドランド鐵道の建設に際し、約六千人の原住勞働者が一醫師の主治の下に十時間勞働に従事し、千人に付き八〇人の死亡者を出せることの明にせらるゝや、委員會は佛國に對して改善の希望を表明し、南阿聯邦に對しては南西阿弗利加に於ける原住民の利益が蹂躪せらるゝなきを明示する爲め、南西阿弗利加に於ける土地立法に關し、詳細なる説明書の提出を要求したのである。以上の外委任統治地域の公債及放資、受任國の締結せる他國との條約を委任統治地域に及ぼすの問題、統治地域に於ける古物發掘に付き智的協力委員會との協力、舊敵人財産の處分、信教の自由等に關して理事會の注意を喚起したことがあるのである。此等は悉く本務以外に屬する事柄である。

委員統治委員會は又委任統治の施政に關する請願を審査するの職權を有してゐる。此の職權が果たして顯著なる効果を收め得るや否や疑問である。併し乍ら、一九二五年に委員會は請願受理の權は委任統治地域の施政に關する一切の陳情書をも包含するものと解釋すとの提言をなしてゐる。斯の如き解釋が委員會活動の重要な範圍の擴張を意味することは明白である。一九二六年一月に至迄、委員會が審査を遂げ、理事會に具申したるものは主としてジオニスト團の請願、アスキナジツク教徒の請願、アラ比亞會施行委員の請願、アグダイスラエル教會の請願等である。

少しく岐路に入るが、委任統治委員會の請願受理に關して、理事會との間に紛擾を醸したことがある。審査手續上の問題であるが、委員會は從來の經驗に鑑み、請願事件の真相を判斷すること難き場合、直接請願人を招致し、事情を聽取するを以て、機宜に適したる緊要の措置となし、此の點に關し理事會に提議するところがあつたのである。此の提議は一九二七年九月理事會の討議に付せられたのであるが、受任諸國の激烈なる反對に際會したのである。殊に英國代表チエンバレン氏の如きは委員會近來の行動を以て越權なりとし、大に痛論したとのことである。其の結果、理由は同一ではないが、受任各國は何れも請願人の召喚に反對し、委員會は請願人招致の權能なき旨を、理事會に通告したのである。之に對し委任統治委員會の副委員長リ

ス氏は、請願人の口頭陳述を許可する場合は極めて特殊の場合である。他に被委任國住民の實情を知悉する辨法なき場合である。而して此等の場合に於ても、手續の慎重は受任國の尊嚴を保護し得る方法はあると辯明してゐる。此の請願人に關する兩者間の爭議は其の孰れに理由ありとするも、委員會をして理事會の有用なる機關たらしむるが爲には、委員會に對し相當の權能附與が必要ではあるまいか、併し乍ら、之れ受任國と被受任國とを全然對等の地位に置き、委員會をして請願人と受任國とを召喚對質せしむる裁判所の權限を有せしむる意義に非ざることは云ふを俟ないのである。委任統治委員會と受任國との衝突を兩者の關係をして疎隔せしめ、獨逸の委員會加入問題と相纏綿して事態をして益々紛糾せしむる虞はあるが、之が爲に受任制度を左右するが如き掛念は萬々在り得べからざることである。

委任統治委員會の他の有用なる職能は一般植民政策の構成と其の勸告とである。固より現在に於ても年報に關する委員會の質疑及解釋中に、例へば現住者教育の獎勵、公衆衛生の改良、強制勞働並に利用の濫用に對する原住者保護の如き、主義若くは政策を發見するに困難ではないのである。白耳義のオアーツ氏の如きは原住者に對し過度の勞働を要求するは危險狀態に在るを以て、委員會は此の點に關し、一切の受任國の注意を喚起する時機に際會せりと云ひ、一層大膽なる手段を提言したのである。此は又公共事業の偉大なる計畫。遠距離間を連絡すべき

鐵道網、着手せられたる大規模工業、鑛業的農業的利用、利潤に於て經營せらるゝ新特權——總て此等の諸活動は夫れぞれ、原住民勞働の強制徵收であり、原住民勞働の斬新にして緊急なる訴願を意味するものであると云つてゐる。強制勞働の結果は多くの場合悲劇に終らざるを得ないのであつて、鐵道、栽培地又は鑛山に於て勞働する爲に、家庭を遠く離れたる原住民勞働者は結核病其の他の疾病に傳染し、之を蔓延せしめ、遂に道德問題を惹起すに至るのである。一委員は又近來の報告は原住民人口の減少を示せることを指摘し、葡萄牙委員は勞働よりは寧ろ酒精及梅毒の傳播が道德の向上を求むる切なるものと云ひ、ラッバード氏は信賴するに足る統計が過度の死亡率を示すとせば、行政官は其の理由を説明すべき責任ありと稱し、結局此等の報告を明白にする爲に質疑をなすに決定したのである。

委任統治委員會が此の問題に關し、一般的公表を爲すや否やに拘はらず、事實を事實として論議することは、今や發達の緒にある委員統治制度の精神から云へば意味深重である。委員會が政策に關する一般法則を發表すると否かを問はず。委任統治施政に關する委員會の批判は、決して無益に終る可きではない。委員會の管轄地域が法律上他の植民領有地、又は一切の植民領有地に擴張せらるゝに至るか、若くは現在の委任統治地域に限定せらるゝか委任統治制度の勢力を人爲的境界に依つて制限せんとするは不可能事である。



一切の從屬的人民に對し、委任統治制度の擴充を鼓吹するレオナルド・ウールフ氏は、若し委任制度にして確實に適用せられんか、委任統治制度と舊帝國主義とは相兩立すべからざる思想であると云つてゐる。帝國主義の降服と、植民地を領有する十國家が近き將來に於て其の領有を國際聯盟の掌中に委ねることゝは、最も樂觀的なる國際主義者の大膽なる希望である。新委任制度と舊帝國主義とが共に吾人の住むが如き小なる世界に生活することは不可能事に屬する。委任制度の思想、委任統治に於ける施政の公的批判及委任統治委員會の、原住民を利し又は害ふことあるべき特殊政策に對する、慎重なる研鑽は知らず知らずの間にではあるが、必然的に委任統治地域以外の植民地の施政に影響を與へて行くに相違ないのである。かくして帝國主義は漸を逐うて教化主義及國際輿論の支配の下に置かるゝに至るのである。佛國の植民大臣エム・アルバート・サラ・氏は一九二三年に、ある場所に於て成功したる革新は必然的に他所に侵徹する。吾人が好むと好まざるとに拘はらず、植民地問題は純粹には國家的ではなくなつたのである。世界環視の下に置かれ、今や國際的光芒を放つに至つたと云つてゐる。ハーヴァート大學のレイモンド・レスリー・ブエル氏は規約第二三條は自國の監理に屬する地域内の土着住民に對し、公正なる待遇を確保することを約すと規定してゐるが、規定の義務は未だ效力を生ずるに至らない。従つて十植民國間に條約を締結し、門戸開放及土着住民の公正なる取扱を保障す

ることが必要である。若し斯の如き條約の締結が現在に於ける實際政治の範圍を踰越し、政治的殊に國民的感情に反するならば、少くとも嘗てハアリー・ジョンストン氏の提唱したるが如き國際諮問會を設立し、植民國に對して採る可き植民政策を進言せしむ可きである。委任統治委員會にしてかくの如き諮問的義務を引受くるならば、實際に於て受任制度の原則を有效ならしむる重要な一手段であると云つてゐる。氏の説は恐らく一般植民政策と其の勸告とに對する一道程であらうと思はれる。注意すべきは氏は受任制度を以て後進地方に對する帝國主義的監理を道德的に正當化する唯一の政策と思惟してゐることである。(完結)